

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799300237		
法人名	社会福祉法人ichi		
事業所名	グループホームあおぞら		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大阪狭山市山本東7の1		
自己評価作成日	令和6年12月8日	評価結果市町村受理日	令和7年2月12日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2799300237-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和6年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所されてから最期の旅立ちまで出来るだけ自然な形で自由に生活して頂きたい。お酒、タバコ、外食、毎日の散歩など楽しみ事を継続して頂く。
あおぞらは看取りに特化していると自負している。一旦病院へ入院してもこれ以上は本人の負担となる場合は病院から看取りの為お連れ帰ります事もある。
あとは、地域貢献と認知症啓発運動にも行政とタッグを組んで力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣には数軒の外食チェーンの店や神社などがあり、ホームは外出や外食を楽しみやすい環境にあります。法人名の「ichi」には「人生の1%が幸せならばその人の人生は幸せ」と捉えた「1%」にこだわる想い、ホーム名の「あおぞら」には、晴天の青空のように輝いてほしいとの想いが込められています。ホーム独自の理念は、職員の言葉を拾い集め作りあげました。永年勤続の職員も多く、家族的な雰囲気の中、飾らないフランクな関係を築き上げています。職員間には活発なコミュニケーションがあり、ストレスの少ない職場環境を職員は自慢の一つに挙げています。また、写真を利用してクッションの使い方などをわかりやすく表示することで、誰もが同じ対応ができるよう、目で見て理解しやすい工夫をしています。家族からは「担当職員が変わらないことで利用者への理解も深まり、ずっと寄り添ってくれているので安心」と感謝の言葉が寄せられています。ホームの表札には入居者の名前も記され、利用者中心の、穏やかな暮らしを支えるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ほぼ出来ている。 ・今年は理念をスタッフ全員で考え新しく作り共有している。	何がいちばん大切なのか全員で考え、まとめあげたホームの理念「今この一瞬を大切に喜びも悲しみも共有しichi番の理解者になります」は、ホーム内に掲示し、運営推進委員会や家族にも知らせています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ほぼ出来ている。 ・今年から自治会に入っており、だんじりの当番や夜警などにも参加。地域のお祭り(盆踊り)には模擬店を出したり、子ども食堂のイベントにも参加している。	自治会にグループホームとして入会し、可能な範囲で活動にも参加しています。地域で暮らす認知症の方の声掛けや見守りもできる限り努めています。また近所には、嚥下が衰えても食べやすい「どろ焼き」の店があり、部屋を借りて食事をすることもあります。緊急時には利用者の見守りなど協力依頼をできる地域との関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・管理者は大阪狭山市介護者家族の会の会長を長年務めており、専門職としても認知症サポーター養成講座、キャラバンメイトの代表であり、年に3回程講師をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1度運営推進会議を開催。行政、地域の方の同席をお願いし、家族様と共に意見を頂戴し、サービスの向上に活かしている。	コロナ禍中では書面で開催し、会議録は委員や家族に郵送で届けていました。対面での会議に移行した現在は積極的に家族にも参加を呼びかけています。他のグループホームの職員の参加もあり、意見交換も行えて有効です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・常に市町村とは密に連携を取っており、特に地域包括支援センターと協力して認知症サポーター養成講座に出向いている。(小学校、病院、自治会等)また、大阪介護者家族の会の会長をしており(管理者)家族のサポートもしている。	地域包括からは講演などの依頼も多く、アルツハイマー月間には、他施設の職員と一緒に寸劇なども行い、認知症の啓発に努めています。サークルや自治会等に訪問するときは、現場の声を交えて伝えるようにしています。管理者は、子ども・高齢者・障がいのある人も共に集える場所や、現場での事例を話し合えるワークショップを狭山市に立ち上げようと計画しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・危険を伴う場合は4点柵を使用する事有り。同意書、検討委員会もあり。	見守りのためのセンサーを利用しています。怪我の防止には低床ベッドを設置したり、寝具の汚染が頻回な利用者には洗える毛布を利用することで、都度手軽に洗濯を行うなど工夫しています。「危ないよ」「こっちに来て」などの言葉は、口にする職員も、耳にする利用者もお互いに辛いと考え、危険を察知した時はすぐに駆けつけて見守り、利用者の行動をなるべく制止しないようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・月一回のユニット会議で不適切な言葉掛け等がないかも確認。毎日のケアの中でも注意すべきことを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在1名の利用者様が成年後見人制度を利用しており、学ぶ機会あり、また常に後見人と連携を取って支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・見学から入所、入所時も含め常に利用者様家族様の立場に立ち、助言を行い理解を頂いている。入所前に自宅に出向く事もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・敷居をグーンと低くして、どんな事でも話しやすい空気を作っている。家族様とラインが繋がっており、情報を発信し意見を頂いている。	家族とのグループLINEを作り、日常の様子をこまめに伝えるようにしています。面会時には、リーダーやサブリーダーが話を聞き、ホームが対応できること、できないことを説明し伝えるようにしています。今まで家族が言い控えていた事も、利用者を思う家族の気持ちを汲み取ることで、ホームと家族がお互い良好な関係を保っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年に1回か2回会社の全体会議有り。その時々には管理者との面談もあり。その中で意見等を聞いている。	職員は飾らないフランクな関係を作り上げ、コミュニケーションも良好と感じています。季節の草花を植えたり、立体的な折り紙作品で廊下の壁を飾るなど、それぞれの場面で自分の得意を活かしています。今後は実践的なスキルアップによる、現場への還元を目指しています。お互いの個性を理解して苦手をフォローすることは、多様性を職場で受け入れることを容易にし、認知症もまた普通のこととして寄り添い、伴走しています。	上司と職員の定期的な面談が少なくなっています。職員間のコミュニケーションは良好と思われますが、1対1の時間を持つことで仕事上でのアドバイスができたり、仕事を離れた「本音」の聞き出しも期待できます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に2回(6月11月)に自己評価を行い、その時に自分以外で頑張っているスタッフに投票。代表者はMVPを選出し表彰している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・介護福祉士等の資格を取る際には会社がテキストを負担し、研修等も行っている。認知症介護のスキルアップの為の個別面談も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・運営推進会議は他事業所にも出向き、またあおぞらにも参加してもらっている。施設部会も再開し情報交換をしている。大阪狭山市の施設職員対象のワークショップの立ち上げの計画を立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ほぼ出来ている。 ・最初の面談で本人の困っている事、したい事等を聞き取り、サービスの導入支援に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ほぼ出来ている。 ・最初の面談時に出来るだけ家族様にも参加して頂き、要望等を聞き取る。参加できない時は後日機会を設ける。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ほぼ出来ている。 ・聞き取った要望により、施設内で出来る事、外部へお願いする事を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ほぼ出来ている。 ・食事後の後片付け。食器拭き、洗濯畳み、日常生活の様々な事をお手伝いして頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・十分に出来ている。 ・通院や買い物、家族様に代わって行かせて頂く。家族様の意向を把握し一緒に考える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ほぼ出来ている。 ・ドライブがてら日頃から気にされている自宅や馴染みの場所へと行ったり出来る限りの支援に努める。	家族がホームへの入居をオープンにしている利用者には、従兄弟や友人の来訪もあります。毎年さつまいもが届く利用者は、お礼の電話をして友好的な関係を継続しています。同じ宗派の知人が訪れ、最後まで声を掛け励ましたこともしました。家族と一緒に馴染みの店に出かける利用者もいます。馴染みや知り合いの繋がりは「来る物は拒まず」の心を基に寛容に受け入れられるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ほぼ出来ている。 ・利用者様のレベルに合わせたレクリエーション(体操、歌、ゲーム)等、利用者様同士の関わりを持って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・看取りをさせて頂いた利用者様の家族様もその後のフォローや相談にも対応。5年前に看取りさせて頂いた家族様等々と現在も交流が続いている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ほぼ出来ている。 ・出来るだけ本人の希望を聞き、企画出来る事はしている。意思疎通の取れない方にはより良く過ごして頂ける様、常に考えている。	意思疎通のはかれる利用者は会話を通して思いを把握しています。上手くいかない時には日常の中での小さなサインを逃さず受け止めるように心がけています。受け止めた思いや気づきは職員間で共有しています。何気ない小さなサインや呟きをもとに家族と話し合い想像し、終末の場に結びつけたこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ほぼ出来ている。 ・居室には馴染みの物を置いたりしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ほぼ出来ている。 ・一人一人の状態把握に努めている。精神状態の不安定な方にも都度寄り添っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ほぼ出来ている。 ・家族様とは面会時や電話等で都度連絡(報連相)ユニット会議では全職員で情報共有。計画の見直し。	体調が維持できており、大きな変化がないときはプランの見直しは6ヵ月に1回のペースで行っています。モニタリングやカンファレンスは月に1回、職員も参加して行います。ADLを長く維持し、穏やかに生活できることをプランを立てる上で一番大切にしています。褥瘡やストマーのケア、喀痰吸引など、医療関係者の指導の下行い、スキルアップに繋がりました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ほぼ出来ている。 ・毎日のご様子は一人一人生活記録に、職員間で共有すべきことは業務管理日誌に記入。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ほぼ出来ている。 ・通院や買い物に家族様に代わって行かせて頂く。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・今年から医療型のデイケアを2名(週2回)利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ほぼ出来ている。 ・入所時には今までのかかりつけ医からの情報を頂きこちらのかかりつけ医に繋ぐ。	協力医療機関の内科医の定期的な往診があり、殆どの利用者が利用しています。歯科、皮膚科の往診も可能です。希望するかかりつけ医や他科受診は、家族が同行しますが、無理な場合は職員が同行しています。整形外科で、マッサージを受けている利用者もいます。2週間の訪問看護が終わっても、常駐の看護師(職員)がおり安心です。年2回の血液検査と、必要に応じて画像検査も実施しています。保健所による「感染症対策研修」も受講しています。救急急変時の対応マニュアルを作成、連絡先を明記し、フェイスシートも添付しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・ほぼ出来ている。 ・日々利用者様の状態把握に努め都度職場内では管理者に報告。連携している病院と共に連絡を取り合う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・ほぼ出来ている。 ・入院時には必ず立ち合い、長期入院とならない様に病院と連絡を取り合い情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・十分に出来ている。 ・入院時には終末期からの看取りの指針等もお渡ししてある。重度化した場合、病院、家族様と十分話し合い、本人にとっての一番をチームで支援に努める。	「重度化や看取り指針」を作成、利用者や家族に説明し「意向確認書」「同意書」を交わしています。段階に応じて、その都度医師に相談、利用者や家族と話し合いを重ねています。看取りまでの過程の変化に応じた対応の仕方を文書化して、職員間で共有しています。入院中の利用者やその家族から、ホームに帰りたいという希望があり、管理者は重度化や看取りに対する取り組み、実績、思いを文書で丁寧に担当医に説明し、ホームでの受け入れを取り付けました。利用者は穏やかな表情を取り戻し、家族からは「ここでの旅立ちに後悔はない」との言葉がありました。職員も、「共に過ごすことができ、嬉しかった」と話しています。	看取りをした利用者の経過や思い出をひとり一人本人の写真を添えてファイルに残しています。以前は看取り後に振り返りカンファレンスを行っていました。ケアの締めくくりとして振り返りカンファレンスを再開されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・ほぼ出来ている。 ・利用者様の急変のマニュアル有り、実践。その時は直ぐに管理者(准看護師)が24時間オンコールで動く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・ほぼ出来ている。 ・年2回の避難訓練が義務付けられており、職員の連携は取れている。	防災管理者を選任、消防訓練を年2回、内1回は消防署立会いの下に実施して総括し、「設備点検実施結果報告書」も提出しています。「緊急連絡網」「発災時の対応マニュアル」も作成しています。関連施設との連携体制を構築すると共に、近隣住民や会社とは、発災時の協力を得やすい良い関係性を築いています。「災害備蓄品」は品名を明記して、一括保管管理していますが、法人でも確保しており安心です。夜間の発災時に関してが現在の課題となっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ほぼ出来ている。 ・言葉掛けには気を付けている。ユニット会議でも常に話し合っている。	個人の人権やプライバシーを尊重する支援に努めています。研修会も実施し、全体会議でも話し合っています。不適切な対応に遭遇した場合、管理者はさりげなく声掛けし、コンプライアンスの徹底に努めています。外出時のオムツ着用の際する利用者の恥じらいの心情に、時間をかけて対応し、家族から喜ばれたことがあります。希望があれば、美容院にも同行しています。	経験豊富な職員も多く、人権やプライバシーを尊重する支援が行われていますが、いろいろな支援場面でのスキルアップを学ぶ研修会を実施し、職員全員に、周知徹底されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ほぼ出来ている。 ・言い切るのではなく、尋ねる声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ほぼ出来ている。 ・無理強いではなく一人一人のペースで対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ほぼ出来ている。 ・モーニングケア時や入浴後に髪を整えて頂いたりしている。女性の方は、希望されればネイルシールを貼らせて頂き気分転換になればと支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・ほぼ出来ている。 ・お手伝い頂ける利用者様には、準備、後片付けを毎日している。	3食とも委託業者から届き、白飯と汁物は、職員が調理します。利用者は、準備や後片付けなど、出来る事を手伝います。中庭での、バーキュー、鰻の蒲焼、薪を使ったお餅つきは、利用者の楽しみとなっています。七夕などの行事食もあり、二段重のおせち料理は、利用者で作ります。外食も再開しました。食事形態や食器の種類(通常、せともの)など、その日の利用者の状態に合わせて提供しています。口腔ケアもしています。「噛むこと」を大切に、楽しい雰囲気の中での食事となるよう、支援に努めています。喫煙所を設けていますが、本数を決め、タバコとライターは職員が預かっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・充分に出来ている。 ・その都度利用者様に合わせた食事量、形態にしている。食事にムラのある方にはゼリーエンシュアも用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・充分に出来ている。 ・口腔ケアは毎食後全員にしている。義歯装着の方にも声掛け、外して洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ほぼ出来ている。 ・排泄のパターンを把握し声掛けによりトイレでの排泄に繋げている。	排泄パターンを把握し、それとない声掛けで自然なトイレ誘導をしています。リハビリパンツを利用した排泄の自立支援にも努めています。退院後の生活リハビリを通して、トイレでの排泄が可能になった利用者もいます。夜間は、声を掛けてトイレ誘導する利用者やポータブルトイレを使用する利用者など、睡眠の妨げにならないよう配慮しながら、個々に合わせた対応をしています。トイレの表示は分かりやすく、車椅子用トイレもあります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・ほぼ出来ている。 ・腹部マッサージ等したり、状態により下剤を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしまわずに、個々にそった支援をしている	・ほぼ出来ている。 ・曜日は決めているが体調不良、拒否等は無理強いせずに次の日に変更している。	入浴は、週2回ですが、柔軟に対応しています。入浴を好まない利用者には、時間や日にちを変えたり、個々に合わせたことば掛けをして勧めています。自立度の低い利用者も、機械浴で、湯船に浸ることができています。家庭的な浴室の床面には、滑り止め仕様が施され、幾つもの手摺りを設置、浴槽用手摺りも備えられ、安心安全に入ることができています。入浴時は職員と、日頃の思いを話す大切な時間となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ほぼ出来ている。 ・一人一人の状態を把握し、その人によってはお昼も横になって頂いている。都度離臥床の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・ほぼ出来ている。 ・服薬の支援はその方によってはとろみで服薬して頂いている。薬変更後、症状の変化には常に気を付けて様子観察をしている。薬局さんとの連携も取れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ほぼ出来ている。 ・無理強いすること無く、また一人一人の得手不得手も把握し日常生活でのお手伝いを分担して頂いたりしている。本人のしてくれと言う思いを大切にしている。外食支援はとても喜ばれる。時に買い物支援(衣服)もあり。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ほぼ出来ている。 ・近くのカフェやドライブ、公園散策等に行き、外の空気を感じて頂いている。その人によっては、毎月外出支援も取り入れている。 ※人員不足の為思うように外出支援は現在難しいが力を入れていきたい。	近隣の散歩や、神社へのお詣りをして、下肢筋力の低下予防に繋がっています。桜見物は、全員参加することができました。外気浴を兼ねて、中庭の草むしりもしています。お手玉や、雑巾作りの楽しみは、機能保持にも繋がっています。外泊や、家族と喫茶店に行く利用者もいます。地域で引き継がれている伊勢神楽がホームにも訪れ、御神楽をあげてもらって元気を頂くことができました。「行事記録表」を作成、利用者の様子や気付きを記録、共有して、より良い支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ほぼ出来ている。 ・現金を持たれる事は基本ない様にして頂いているが、本氏、家族様の希望も有り少しは持って頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ほぼ出来ている。 ・電話を希望される方にはして頂いている。手紙も希望される方には自由に書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・十分に出来ている。 ・季節感を取り入れる為に毎月、飾りを作って飾っている。 ※毎月の飾り物(季節感を感じて頂ける様)は利用者様、スタッフで素敵な物が出来ている。	職員が育てた花が玄関前を彩り、来訪者を迎えます。掃き出し窓から差し込む日差しが明るいうリビングから中庭に出ると、町の様子や馴染みの店を見ることができます。通路や壁面には、手作り作品や家族が写した写真が掲げられています。幾つものソファは場所を選んで配置し、利用者同志の語らいの場になっています。一人で過ごしたい利用者の為の一人用のソファもあります。利用者の状態や気持ちに沿って、テーブルの配置を変えることもあります。対面式キッチンで、調理中の職員と利用者が語りあえる家庭的な空間づくりをしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・十分に出来ている。 ・廊下にはソファを配置し1人になりたい時や利用者様同士でお話される場としても使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ほぼ出来ている。 ・居室には家族様からのメッセージのお手紙や写真を飾ったりされている。ハンガーラック、座椅子、それぞれ思いの物を置いて頂き過ぎて頂いている。	大きな窓から季節の移ろいを感じとれる居室の、それぞれの表札の横には季節の飾り物を添えて、自室が分かりやすいよう工夫しています。ホームでは、ベッド、カーテン、エアコンを用意し、利用者は、馴染みの物を持ち込みます。嫁入りタンスや鏡台を持ち込んだり、家族の写真、プレゼントされた花や散歩の道すがら摘んだ野の花を飾る利用者もいます。トイレと手洗い器付きの居室もあります。その人に合った、安心して過ごせる居室作りを大切に支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ほぼ出来ている。 ・居室の名札も大きく報じ表示し分かりやすくしている。		